

防災科学技術研究所

WWWサービス開始について

防災科学技術研究所では、平成6年4月よりインターネットを使った情報提供サービスとして、主に研究者を対象とした電子メールによる地震情報即時提供サービスを実施してきました。

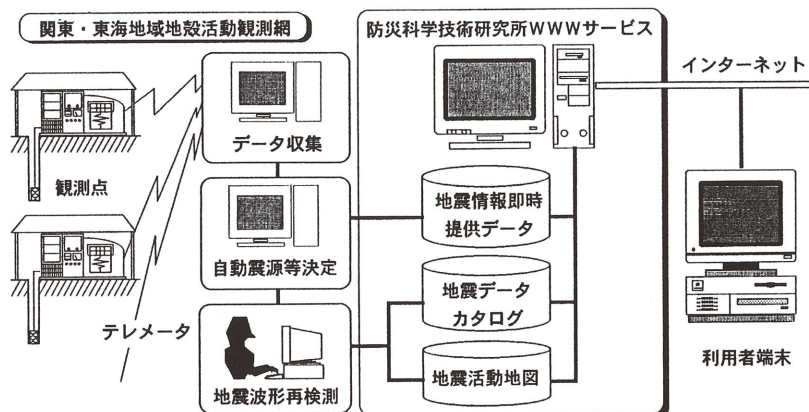
このサービスは、当研究所の関東・東海地域地殻活動観測網（約100観測点）から電話回線をつくばに送られてきた地震データをオンライン・リアルタイム計算機により処理し、自動震源決定結果及び発震機構解決定結果を利用希望者に対して電子メールにより即時情報として提供するものであり、関東・東海地方に発生した深さ200km以浅、マグニチュード3.0以上の地震について、その発生時刻、震源位置、マグニチュード、主圧力軸・主張力軸方位の数値と共に、発震機構解の図をテキストデータとして配信していました。地震の大きさに依存しますが、地震発生後概ね10～20分後には配信が可能でした。

今回、平成6年度末で回線容量の大きいSTAネットが当研究所に接続され、大量かつ高速のデータ交換がインターネット上で可能になったことを契機に、従来の電子メールという利用者限定から、利用者非限定であるWWW（World Wide Web）サービスに移行する事になりました。

（アクセス先 <http://www.bosai.go.jp>）

主なサービス内容は、当研究所の観測網で決定された震源データの提供であり、これには次の3種類のデータが用意されています。

1. 自動処理による地震情報即時提供サービス



先に述べた、従来電子メールで利用希望者に対して配信していた自動震源決定結果および発震機構解の図のテキストデータをWWW上に登録したものです。従来同様、地震発生後概ね10～20分後にはデータが登録されます。また、マグニチュード等の制限を外した自動震源決定結果（発震機構解は除く）の全データも1日毎のファイルとして登録されます。

2. 防災科学技術研究所地震データカタログ

自動震源決定後、オフラインでのオペレータによる地震波形の再読取りを経て最終決定された震源データで、1979年より1月毎のファイルとして登録されています。このデータは、平成5年4月からパソコン通信により運用中のサービスである「NIED Hypocenter Service」において提供しているデータと同等のものです。

3. 関東・東海地方における地震活動地図

最終決定された震源データを1年毎に2次元の地図上にプロットした画像データです。

なお、1と2のデータファイルについては、WWWサービス以外にanonymous-ftpでも取得することが可能です。（アクセス先 [ftp.bosai.go.jp](ftp://ftp.bosai.go.jp)）

これらのサービスは、平成7年3月より試験運用を開始し、内容の充実をはかり、平成7年6月1日より本運用を開始しました。

（地震予知研究センター・松本拓己）